

倫理審査委員会

開 催 日：平成27年9月16日（水）

出 席 者：事務部長、看護部長、産婦人科部長、管理課長、伊藤外部委員

検討事項：リウマチ患者の安楽な食事摂取の方法
～残存機能を生かしたかかわり～

議論の概要：リウマチで全身の痛みがあり日常生活の援助はすべて介助を必要としているが、食事は唯一自力で摂取出来ている。しかし、細菌は痛みにより変形、拘縮、関節の可動域が狭くなり、全量摂取が難しくなっている。入院時は自力で全量摂取できていたのが現在は介助を必要としている部分が増えてきており、残存機能を可能な限り活用した安全、安楽な食事の自力摂取ができるよう、患者様にあつた関わりについて検討する研究の可否。

審査結果：不承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成27年9月16日（水）

出 席 者：事務部長、看護部長、産婦人科部長、管理課長、伊藤外部委員

検討事項：重症心身障害児（者）の頭皮湿疹へのスキンケア ハーフビネガーと保湿剤を併用した頭皮のスキンケアによる皮膚トラブル軽減効果

議論の概要：重症心身障害児（者）の皮膚トラブルに対するスキンケアとして、ハーフビネガーを用いており、多くの患者に改善が見られたが、乾燥した頭皮患者は改善に時間がかかり、完治には至らなかつたことから、ハーフビネガーのみでは保湿が不十分なため、頭皮が乾燥している患者にはハーフビネガーと保湿剤を併用し、頭皮トラブルの軽減効果について明らかにする研究の可否。

審査結果：承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成27年9月16日（水）

出 席 者：事務部長、看護部長、産婦人科部長、管理課長、伊藤外部委員

検討事項：同じ手技でケアする事で開口幅が拡大するかどうか。Kポイント刺激前後での比較検討

議論の概要：通常はあくびをしたり、呼吸の際には自然に開口しているが、口腔ケアの際に口を硬く閉じてしまうことが多い。口腔ケアに抵抗があること、口腔内は刺激に敏感なためケアの刺激で閉じてしまうことが考えられたが、これでは口腔内の清潔が保てず、不潔になることで様々な疾患を引き起こす可能性がある。また、無理に開口しようとして関節に負荷を与えてしまう、口腔内が乾燥してしまう等の問題があり、簡単に開口することができればケアの質の向上にも繋がることが考えられることから、Kポイント刺激による変化を比較する研究の可否。

審査結果：承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成27年9月16日（水）

出 席 者：事務部長、看護部長、産婦人科部長、管理課長、伊藤外部委員

検討事項：看護学生の母性看護実習前後における助産師のイメージの変化と
その場面 ～今後の実習のあり方の検討～

議論の概要：母性看護学学習で助産師を目指したという事実があり、先行研究でも母性看護学学習が看護学生の助産師志望動機に影響を与えていると言われている。今後、助産師の担う役割も重要となってくることから、より助産師の仕事に興味を持ち、助産師になりたい。母性看護の領域に関わりたいと思ってもらえるような関わりが重要であると考え、看護学生の助産師という職業に対し持っているイメージを母性看護実習の前後でどのように変化するかを調査する研究の可否。

審査結果：承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成27年9月16日（水）

出 席 者：事務部長、看護部長、産婦人科部長、管理課長、伊藤外部委員

検討事項：NICUからGCUへ転棟してきた両親の気持ちを明らかにする

議論の概要：NICUからGCUへの転棟の際、あらかじめ予定されていた転棟の場合は、退院に向けて両親に患児の状態に併せ育児技術の取得の実施を説明し、スムーズな転棟ができるような関わりを持っているが、予定にない急な転棟の場合は説明が不十分になってしまうことがある。また、NICUでは治療を重視し、行っていないおむつ交換、沐浴、授乳などの援助や技術についての不安や担当スタッフが変わるなど入院環境の変化に対する不安の声が聞こえてくることがあった。

転棟に伴う両親の様々な不安や戸惑い、また父親と母親の患児に対する心理の違いを明らかにする研究の可否。

審査結果：承認